

## IV 女性の活躍WG

女性の活躍を実現するために

2014年10月21日

女性の活躍WG 主査、東京大学大学院 教育学研究科 教授  
本田 由紀

# 目次

はじめに

第1章 「女性の活躍」の意義と方向性

第2章 「女性の活躍」をめぐる現状と課題の分析

第3章 「女性の活躍」に関わる諸要因に関する  
調査結果の分析

第4章 「女性の活躍」に向けての提言

おわりに

附属資料

女性の活躍ワーキンググループ メンバー

女性の活躍ワーキンググループ 活動の記録

女性の活躍ワーキンググループにおける講演資料

# 第1章 「女性の活躍」の意義と方向性

- 普遍的な観点からみた「女性の活躍」
- 日本に特徴的な状況とその問題点
- 歴史的背景とひずみの顕在化
- 現政権下で特に「成長戦略」の一環として  
「女性の活躍」の推進の動き
- さらなる進展のための課題
- めざすべき「女性の活躍」の方向性

# 【第1章のポイント】

## 1. 「女性の活躍」が求められる理由

「効率性」、「公正性」、「多様性」

## 2. 本WGのスタンス

「女性の活躍」＝「全ての人の、それぞれの選択に基づく多様な活躍」という目標の一環

## 3. めざすべき「女性の活躍」の方向性

### (1) 仕事役割と家庭役割の一定程度の軽減

← 男女それぞれにとって過剰に負荷

### (2) 法や制度の改革とともに、社会規範や価値意識の可視化

← 多様な活躍を阻害、又は固定的な役割に押し込み

### (3) 強めの施策

← 既に極めて遅れた地点からのスタートで、急速に変化

## 第2章 「女性の活躍」をめぐる現状と 課題の分析

- ジェンダー・ギャップ指数
- 労働力率の推移と雇用者構成割合
- 管理職の女性割合
- 性別役割分業を前提とした社会保障制度
- ロールモデルの少なさ
- 残存する男性稼ぎ手イメージ

⇒ いずれの点でも、日本の「女性の活躍」は著しく遅れている

# 第3章 「女性の活躍」に関わる諸要因 に関する調査結果の分析

○調査概要

○各変数の基本的な分布

○主な調査結果

○調査結果からのインプリケーション

# 【 第3章のポイント 】

1. 男性の家庭進出[カジメン]は、  
女性の社会進出[バリキャリ] や、子どもの積極性の形成にも  
プラス
2. 職場の中高年層の理解が少ないこと[粘土層]が、  
男性の家庭進出にとっての障害の1つ
3. 女性の社会進出は、
  - (1) 家族生活を阻害しない
  - (2) 家族生活を安定化させる
  - (3) 子どもの積極性の形成にもつながる(多様な人々との接触)
4. 女性の社会進出実現のためには、
  - (1) 長時間労働などの働き方の是正
  - (2) 介護と育児に関する公的サービスや金銭的支援の拡大
5. 女性の就労ニーズは多様なので、  
適合的な活躍の場へつなげるサービスが必要

# 第4章 「女性の活躍」に向けての提言

## 1. 政府に求められる取組

- |           |              |
|-----------|--------------|
| (1) 全体    | (3) 保育・教育・介護 |
| (2) 労働・雇用 | (4) その他      |

## 2. 企業に求められる取組

## 3. 自治体に求められる取組

- |           |              |
|-----------|--------------|
| (1) 全体    | (3) 保育・教育・介護 |
| (2) 労働・雇用 | (4) その他      |

## 4. 個人に求められる取組



# 【 第4章における主な提言例 】

## 1. 政府に対して

- (1) 労働時間上限規制の法制化
- (2) 「限定型正社員」の積極的推進
- (3) 同等業務に従事する非正規社員と正社員に係る  
処遇均衡の義務化

## 2. 企業に対して

- (1) 男女間の職域の均等化
- (2) 有給休暇の時間単位での取得の制度化
- (3) 育児休暇・介護休暇の研修化と、復帰後の業務への  
活用化の仕組の導入

# 【 第4章における主な提言例 】

## 3. 自治体に対して

- (1) 職業訓練と就労支援、及び求人開拓と雇用創出の積極推進
- (2) 入札や委託先選定基準への、「女性の活躍」推進度の導入(公契約条例等)
- (3) 待機児童削減のための独自の取組推進(空き家や空き施設の有効活用等)

## 4. 個人に対して

- (1) 「男性らしさ」「女性らしさ」や「標準的な生き方」に関する自分の考え方に気づき、
- (2) 多様で自由な在り方を受け容れ、認める